

浸水から街を守る  
下水道の取り組み  
～西河原地区～

Vol. 07

「浸水」と聞くと、河川の決壊によって市街地に大量の水が流れ込むことで発生するイメージを持っている方が多いと思います。

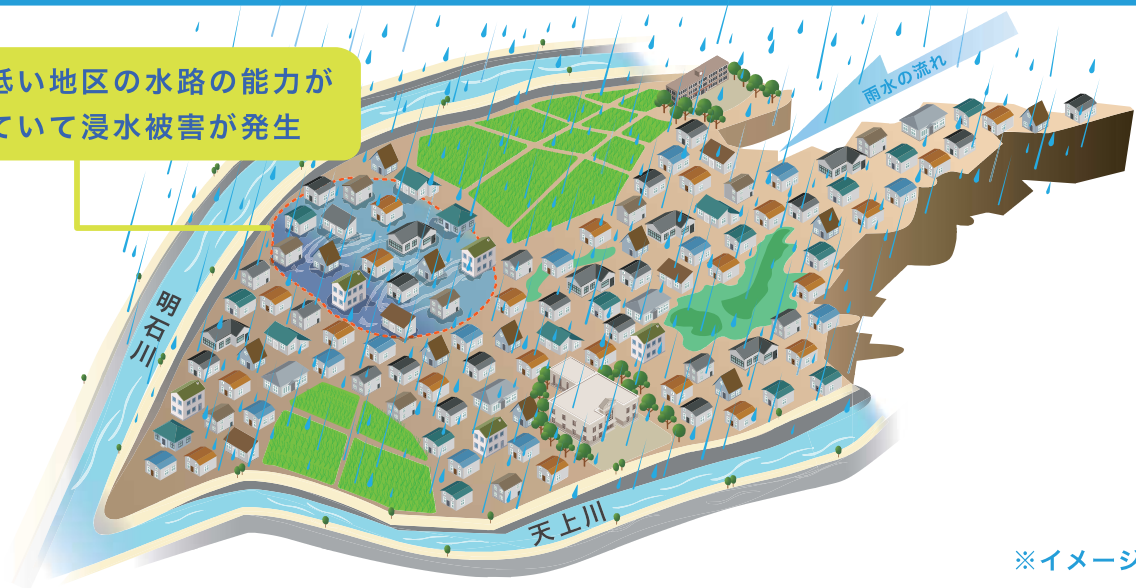
しかし、河川の決壊以外にも、大量の雨が降り注ぎ、水路の能力が不足することで浸水してしまうケースもあります。今回は、水路の能力不足により過去に度々浸水していた「西河原地区」(神戸市西区)での浸水対策事業の取り組みをご紹介します。

西河原地区は明石川と天上川に挟まれた地域で、川の合流付近は地盤が低く、水路の能力も不足していたため、住宅地側で浸水被害が発生していました。

そのため、新たに大口径の雨水管を設置し、排水の流れを変えることで、浸水被害を軽減しました。

**before** : 地盤の高い地区から低い地区へ雨水が流れていました。

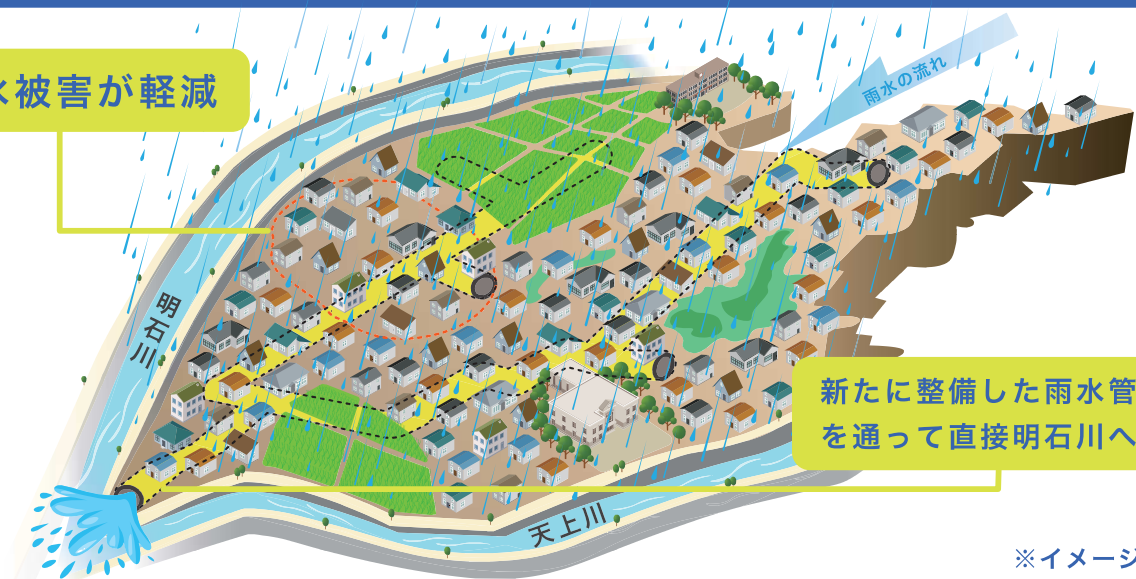
地盤の低い地区の水路の能力が不足していて浸水被害が発生



※イメージ図

**after** : 新たな雨水管を設置し、水路の能力を強化しました。

浸水被害が軽減



新たに整備した雨水管  
を通して直接明石川へ

※イメージ図



浸水のほか、身の回りには様々な災害のリスクがあります。いざという時に行動できるよう、くらしの防災ガイド(ハザードマップ)で自宅や職場のリスクを確認しておきましょう。

